

開講科目名／Course	環境保健学詳論	
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 1 学期／First	
開講区分／semester offered	1 学期／First	
単位数／Credits	1.0	
学年／Year	3	
主担当教員／Main Instructor	小嶋 光明	
担当教員名／Instructor	小嶋 光明、恵谷 玲央	
必修・選択 ／compulsory subject	必修	
講義形態 ／Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	本講義では生活の中で遭遇する身近な環境因子による具体的な健康影響を学び、その予防・安全管理について理解する。	
到達目標	1. 健康に影響を与える環境因子を説明できる。 2. 環境因子による健康影響の予防策が説明できる。	
DPとの対応	3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ	
授業計画	01. オリエンテーション(授業の進め方、課題レポート) 02. 熱中症対策に塩分はなぜ必要か？ 03. MRI検査でなぜ金属物を持ち込めないのか？ 04. ミクロショックでは微量な電流でもなぜ致命的なのか？ 05. 感染症の危機管理に何が必要か？ 06. PM2.5の健康影響をどう考えればよいか?その対策は？ 07. 化学物質中毒死の中で最も多い原因が一酸化炭素中毒である。なぜか？ 08. 社会的な喫煙対策が進まないのはなぜか？ 09. 多くの健康食品の効果はプラシーボ効果で説明できるか？ 10. 予防ワクチンの集団の効果も期待し、個人の副作用リスクを避けるにはどうするか？ ＊オリエンテーションで1人1課題を与え、2回目以降の講義で順次発表してもらう。	
その他の授業の工夫	学生自身が主体的に学び、そして、より深く理解するために、1人1課題を与え発表してもらうことにしている。	
時間外学修	事前学修:課せられた課題をまとめる（13h）。 事後学修:小テストや配布資料を用いて復習する（6h）。	
評価方法と評価割合	課題発表（30%）および筆記試験（70%） 筆記試験の受験には課題発表が必須である。	
テキスト	講義ごとにハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		